

先達者の偉業に学ぶ

図書館長・介護福祉学科教授 土室 修 (2021.5.7)

現場で働くにあたり、経験のある先輩方から学ぶことは多いですが、その分野で偉業を残した先達から学ぶ事も多いでしょう。福祉の歴史を紐解けば、多くの篤志家や社会事業家が功績を残しています。そのなかから、石井十次を取り上げてみます。

石井十次は、明治時代に活躍した社会事業家であり、1887年に岡山孤児院を創設しました。彼は、無制限主義の考えに基づき、濃尾大地震の被災孤児や東北大飢饉による孤児を引き取り、最盛期には1200名の子どもを預かっていました。孤児院は、自給自足を原則としていましたが、単に施しを与えるだけではなく、子ども達に教育を受けさせ、手に職を付けさせ、自立を促していました。音楽隊を結成し各地を巡行したり、義援金や善意箱を設置したり、厳しい財政事情を克服する取り組みもしていました。また、大阪にはセツルメントを設け、貧困な青少年の教育や相談事業を展開しましたが、晩年には、宮崎の茶臼原で農業的労作教育を柱にした「散在的孤児院」(里親村)を建設に取り組み、孤児院を移転させています。

なぜ、これほどまで精力的に孤児救済に奔走できたのでしょうか。彼の猪突猛進の性格もあるでしょうが、思想的背景を見ると、故郷、高鍋藩の明倫堂で受けた教育を原点としつつ、キリスト教(プロテスタント)の博愛主義に共感し、ルソーの「エミール」に触発されるなど、多元的な思想に基づき、実践を展開していた、ということです。当時、医師を諦め、孤児救済の道を選択した背景には、キリスト教の「二人の主には仕えることはできない」という言葉がありました。孤児救済は教育でなければならぬ、という信念に基づき、子ども達に教育を施しています。人間の教育のあり方を説いたエミールに感化され、自然の中で自由な教育を行うため、茶臼原に移転を決意しています。

当時は、近代化の過程のなかで、新たに顕在化した貧困問題に対峙する必要がありました。篤志家による慈善事業は、社会の矛盾に気づき、向き合うことで、なし得たものといえるでしょう。ある意味、理想の社会の創造を目指していたのかもしれませんが、揺るぎない信念をもつこと、将来の目標や夢をもつことの大切さを教えてくれた気がします。

本学が所蔵する石井十次に関連する蔵書、DVD

- ・田中和男、近代日本の福祉実践と国民統合：留岡幸助と石井十次の思想と行動、法律文化社、2000 (請求記号 369.02：Ta84)
- ・DVD、石井のおとうさんありがとうー岡山孤児院・石井十次の生涯、2004 (請求記号 778.21：I)
- ・ウェブサイト「宮崎県郷土先覚者」石井十次のページでは、多数の書籍が紹介されています。
- ・石井の足跡や記録物等を保管した「石井十次記念館」(石井十次資料館・研修館・方舟館・静養館・大原館を含む)が宮崎県大城町にあります。